

明日へつながる、より確かな医療連携をめざして。

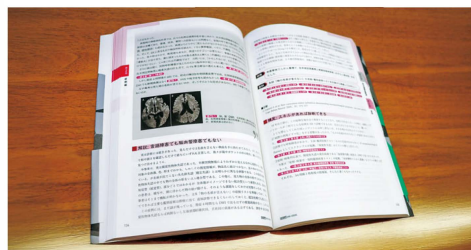
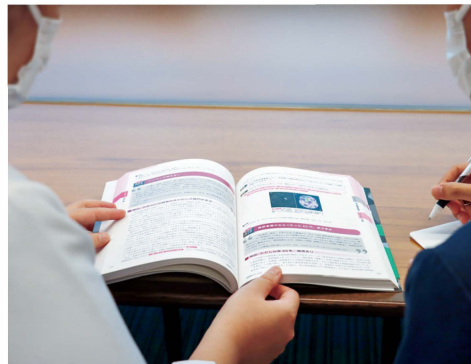


済生会熊本病院
部長就任のご挨拶

書籍発刊の
お知らせ

武器としての神経症候・高次脳機能障害の診かた 高次は地味だが役に立つ

稲富 雄一郎 著



当院の脳神経内科副部長 稲富雄一郎先生が新たに著書「武器としての神経症候・高次脳機能障害の診かた 高次は地味だが役に立つ」を出版しました。
当書は、神経症候や高次脳機能障害の診断と治療に関する実践的な内容が満載です。
連携医療機関の皆様の日々の診療において、少しでもお役に立てれば幸いです。ぜひご一読いただければと思います。

Book Info



武器としての神経症候・
高次脳機能障害の診かた
高次は地味だが役に立つ

稲富 雄一郎 著
B5判 324頁
ISBN978-4-498-42826-3

詳しくは
こちら



Authorial Comment



脳神経内科副部長
稲富 雄一郎先生

このようなお仕事が出来ましたのも、皆さまの平素からの患者さんのご紹介と、地域完結型診療で、急性期治療に特化させていただいているおかげであり、心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程、どうかよろしくお願い申し上げます。
また軽微な症候、不可解な症候を持つ患者さんの中に、実は本著にありますような治療可能(必要)なケースが隠れていることがあります。困ったケースがありましたら、いつでも当科外来、救急外来にご紹介ください。見立てがハズレでも構いません、我々もまだまだ判らないことが多く、一緒に勉強いたします。
今後ともよろしくお願いいたします。

New!

臨床研究センター Webサイト OPENしました!

当院で行う治験や臨床研究の情報を発信しています。当センターの活動をご覧ください、今後の連携にお役立ていただければ幸いです。
ぜひご覧ください。

詳しくは
こちらから





医師としてのオリジナルの地で 経験を活かしたチーム医療を

消化器内科部長

庄野 孝

しょうの たかし

初夏の候、皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。

この度、4月1日付で消化器内科部長を拝命いたしました庄野孝と申します。熊本市出身の52歳です。済生会熊本病院へは研修医・レジデント以来、17年ぶりの“帰還”となります。当時の須古博信院長、多田修治消化器内科部長の薫陶を受け、消化器内科医師となる道を選びました。17年はあっという間でした。熊本大学病院の11年間は、臨床医として内視鏡診断・治療に没頭しながら、教官として医学教育・臨床研究にも力を注ぎました。うち2年間は国内留学し、埼玉医科大学国際医療センターで、熊本では学ぶことができなかった最新の内視鏡治療を学んでまいりました。前任地の熊本中央病院では部長として6年、医療の根幹となる地域医療の在り方について、たくさんの開業医の先生方と交流させていただき、基幹病院としての役割を模索してまいりました。

その経験を基に、済生会熊本病院では、次のA～Eを大事にした診療を行いたいと考えています。魅力的で(Attractive)、垣根のない(Borderless)、礼節を重んじた(Courtesy)、対話する(Dialog)、エビデンスに基づいた(Evidence-based)、チーム医療を展開していく予定です。私の医師としてのオリジナルの地で、たゆまぬ努力を続けていきたいと思っておりますので、どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

略歴

2001年3月	宮崎医科大学 医学部医学科卒業
2001年5月	熊本大学 医学部第一内科 研修医
2004年4月	済生会熊本病院 消化器病センター レジデント
2008年4月	熊本大学 医学部消化器内科 医員
2010年4月	埼玉医科大学 国際医療センター 助教
2012年4月	熊本大学 医学部消化器内科 助教
2015年4月	熊本大学医学部附属病院 光学医療診療部 副部長
2019年4月	熊本中央病院 消化器内科 医長
2021年4月	熊本中央病院 消化器内科 部長
2025年4月	済生会熊本病院 消化器内科 部長

専門分野

消化器内科一般、早期がんの内視鏡治療、悪性消化管狭窄に対する部消化管ステント治療

資格・所属学会

医学博士
日本内科学会
(内科認定医・総合内科専門医・指導医)
日本消化器病学会
(消化器病専門医・指導医・九州支部評議員)
日本消化器内視鏡学会(専門医・指導医・九州支部評議員・学術評議員・Fellow of JGES)
日本消化管学会(胃腸科専門医)
日本肝臓学会(専門医)
日本がん治療認定医機構(認定医)

趣味・マイブーム

趣味: 釣り(ルアーフィッシング)、ラグビー観戦
マイブーム: 革製品のお手入れ



高度医療と救急医療で 地域・病院の発展に貢献する

外科部長

今井 克憲

いまい かつのり

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、2025年4月1日より外科部長を拝命いたしました今井克憲と申します。私にとりまして身にあまる重積ではございますが、全力を尽くして職務を果たす所存でございます。まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。熊本大学卒業後に当時の第二外科に入局し、済生会熊本病院でも2年間レジデントとして勤務いたしました。その後、10年以上熊本大学消化器外科教室で、肝胆膵外科のスタッフとして日々研鑽を積んでまいりました。その間、2年間のフランス留学も経験し、肝胆膵外科医としての練度を上げるべく精進してまいりました。2022年5月に当院へ戻り、現在は専門の肝胆膵外科に加え、消化器一般外科、救急外科に従事しております。

当院が掲げる基本方針である、高度医療と救急医療に関して述べさせていただきます。高度医療の名の下に推進している低侵襲治療は、今後ますます進む高齢化社会において非常に重要であります。消化管領域ではロボット手術をますます推進していくとともに、肝胆膵領域でもロボット手術の導入を進めております。しかし、低侵襲治療は安全性と根治性が担保された上ではじめて成り立つものであり、傷を小さくすることが低侵襲ではありません。その考えを十分に共有した上で低侵襲治療を推進していくにあたり、鏡視下手術やロボット手術は大きな役割を果たすツールであり、質の高い医療を通じて地域社会に貢献することが出来ると信じております。

救急医療に関しては、24時間いつでも対応できる体制を維持し、例え緊急手術であっても、本当の意味での低侵襲を目指した医療を提供し続けていきたいと考えております。甚だ微力ではございますが、地域・病院の発展に貢献するべく、診療科一同精進してまいります。ご指導・ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

2001年3月	熊本大学 医学部卒業
2001年4月	熊本大学 医学部第二外科入局 研修医
2003年7月	済生会熊本病院 外科 レジデント
2005年7月	天草中央総合病院 外科 医員
2006年4月	熊本大学大学院 博士課程入学
2009年3月	熊本大学大学院 博士課程修了 医学博士
2009年4月	天草地域医療センター 外科 医員
2011年4月	熊本大学 消化器外科 医員、特任助教
2013年11月	Hopital Universite Paul Brousse Clinical fellow
2015年10月	熊本大学 消化器外科 助教、診療講師
2022年5月	済生会熊本病院 外科 医長、副部長
2025年3月	済生会熊本病院 外科 部長

専門分野

肝・胆・膵外科、内視鏡外科

資格・所属学会

日本外科学会(外科認定医・専門医・指導医)
日本消化器外科学会(消化器外科専門医・指導医・評議員)
日本消化器病学会(消化器病専門医・指導医・本部評議員)
日本肝胆膵外科学会(高度技能専門医・評議員)
日本内視鏡外科学会(技術認定医(消化器一般・肝臓)・評議員)
日本肝臓学会(肝臓専門医・指導医)
日本消化器内視鏡学会(内視鏡専門医・指導医)
日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)
Fellow of the American College of Surgeons
(米国外科学会フェロー)
ASCO(active member)
EAES(active member)
Liver Met Survey(scientific committee)

趣味・マイブーム

趣味: 読書
マイブーム: ダイエット(脱メタボ)